第 40 回インナーゼミナール大会

研究計画書

ゼミ名	柘植ゼミⅡ
チーム名	アクティブ柘植
タイトル	『持続可能な農業』を推進するために　～CVM から分かる有効な販売手段～
テーマ群	c)公共経済、e)産業・企業
メンバー	◎田中望美、稲谷千恵子、北村龍、小林凌、後藤朋子、佐々木悠、澤田舞、田崎健太、俵谷哲広、増田知己、宮本舞、山中直美、山本紗希
研究計画内容	ここ数年における日本の就農者や耕作面積は、ともに減少する一方であり、日本の農業は衰退していると言っても過言ではない。 そこで、私たちは農業がこのまま衰退しても良いのだろうかという点に疑問を抱いた。農業には食物を供給する機能があることは勿論のこと、その他に、例えば農業を営むことで洪水が防止されると言った、食物供給以外に多面にわたる機能がある。このような機能は一般的に多面的機能と呼ばれており、私たちはまずこの多面的機能について環境経済学の観点から農業の持つ多面的機能の経済的価値について学んだ。 次に、私たちは「持続可能な農業」という概念に注目した。持続可能な農業とは環境面、経営面ともに持続していくことができる農業のことである。そして、私たちは持続可能な農業を研究する上で、化学肥料や農薬を使わない農業である有機農法を取り上げ、さらに私たちに身近な農作物である米に焦点を当て、研究した。具体的な研究内容としては、まず持続可能な農業を普及させるためには農家の収益を確保すると言った経営面の問題が大きいことが分かった。現在行なわれている制度の多くは、経営面の問題を克服するために、農家言わば供給者側に対して補助金が支払われることが多いが、私たちは市場メカニズムを通じて、消費者側の観点から経営面の問題を克服できないか考える。 その手法として、仮想評価法（CVM）を用いてアンケート調査を実施する。アンケート内容としては、米がより売れるにはどうすれば良いのかという売り方についてのことと、有機農法の持つブランド価値についてである。 以上の研究を通じて、私たちはどのように持続可能な農業の普及を促進できるかについて考えることを最終目標としている。